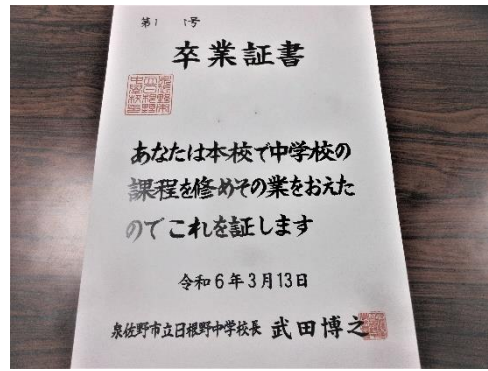


日根野中だより

令和6年2月26日発行 日根野中学校 校長 武田博之

「唯一」が教える意味…卒業証書より

1月下旬に、今年度の卒業生に手渡される卒業証書が完成し、学校に届けられました。その卒業証書に名前・生年月日等をひとり一人丁寧に、清書をお願いしている先生のお家に届けに行ったのが2月上旬…。先日その清書が出来上がり、学校に届けていただきました。その素晴らしい卒業証書に感激…。有り難く拝見させていただきました。3年生の先生方の思いも敏感に感じ取られているような、その出来栄えに感謝…。



丁寧な作業、思い、時間をかけていただき、全員の証書が出来上がりました。

前任校で、以前同じように卒業証書の清書をお願いした書道の先生のお話の中に、常に意味深く存在した「唯一」という言葉…。これは我々教師への、今を生きるすべての人々への戒めの意味が込められていると感じ、ここに紹介したいと思います。

我々教師から見れば、全校生徒約500人の中のひとり…。そのひとり一人に渡す卒業証書も、今年であれば、170枚余りの一枚に過ぎないもの…。全部を印刷で仕上げている学校も多くなってきた今…本当に単なる流れ作業の中で出来上がってきた一枚になってしまう恐れもある…。でも卒業する生徒ひとり一人の目から見れば、それは「唯一」の一枚…。本当に大事な意味を持つ、唯一無二の一枚になるということを忘れてはならない…という大変難しいですが、そんな視点を持ち、強い思いを持たなければならないという「教え」だと感じます。

科学技術の発展に伴い、大量生産が可能になった今、そのひとつ一つに心があるのか？ないのか？と言えば、全くなくても流れてしまいがちな時代…。効率よく無駄がないことが、あたかも全てが正しいと、疑いもなく信じられているように感じる時代…。その「唯一」の意味を教える、その深い意味合いを考えるべき時が「今」なのではないか…。また、理想を求めていかななくてはならない…学校の教師こそが、これからの未来を担っていく、生徒ひとり一人の人

格形成に大きな影響を及ぼす存在だと自覚したとき、絶対に変えてはいけない「不易」な部分の大切な要素として、この「唯一」を胸に刻み込むべきなのではないかと考えてしまいます。この意味深く考え、心を込めて準備された卒業証書が渡される、卒業式まであと二週間…。残り少なくなってきましたが、何よりも健康でその日を迎えてほしい…。がんばりましょう！

3.11 東日本大震災からもうすぐ13年…防災を考える…

学校教育の中で、防災を取り上げる場合…当たり前のことですが、まずは自分の「命を守る」行動を求めます。その命を守るとは、言い換えれば「命を輝かせる」こと…。これが学校教育の中で実感できれば、「この子たちの命を守る」という教師側の意識…

「自分は何としても生き残るのだ！」という子どもたちの強い意識が生まれてきます…。「生きていくのはつまらない…」ということとは真逆です…。もっと普段の生活の中に置き換えれば、防災とは「ただいま！」と大きな声で言えること…あの日、言えるはずだった…でも言えなかった「ただいま！」がたくさんあります。家に帰るまでは絶対に命を落としてはいけない…ということです。どんなことがあっても帰りたい家庭をつくるのが、何よりの防災だと考えます。「行ってきます・おかえりなさい！」と言い合える地域・家庭はもちろん防災…「おはよう・おやすみなさい」の繰り返しも防災だと言えるのだと思います。食べ物も、着る服も寝る場所も、電気や水も、あの日大切だったすべてのものは、平穏な今だって大切なもの…。今もないと困るものです…。同じように、習慣や周囲の人との人間関係も、大変な災害時に急に作り上げられるものでないはず…。命はその最たるもので、災害時に急に大切になるものではないということです。大切なもの…「もしも？…」は、いつもの当たり前の中にあるのです…。そんな大切な日々の生き方そのものが「防災」だと自覚していかなければならない…ということですね。

生きる上で大切な事は…
立てた目標を達成する…
ただそれだけでなく
その目標を達成する
必死こいて生きる事…
だと思えます…

3/13(水):卒業証書授与式のお願い…

4年ぶりに元通りの形式で、制約もなく卒業証書授与式が行うことが出来ます。対外的な意味も含んだ式典だけに、まるっきり元通りに…と考えてはいましたが、時代の流れとともに変化させていくべきだと考え、このコロナ禍…苦しい中でも実施できた形を少し取り入れ、次第を考えています。

今までの形にこだわったものではなく、時間短縮も含め、より良い形を考え、子どもたちにとって思い出深い式典になるようにしていきます。送る側と送られる側の感謝という「心」が入ってこそ、感動的な卒業式になる…その考えのもと、計画していきます。ご理解ください。